

一般社団法人里の家

マミーの森 遊びの森と木地師の森づくり

取組概要

- 子どもの自然あそびが減少していること、木材の利用がスギ・ヒノキ中心になっていることを課題と考えて取り組んでいます。
- 都田町内の放置されていた約3haの二次林を、使うことで「維持される里山」「木地師(きじし)の森と森林体験」をテーマに整備を進めています。
- 植樹や定期的な手入れを通じ、里山体験ができるフィールドづくりをしています。また、森づくりを通じて循環型の暮らしづくりを進めています。



はじめたきっかけ

高校時代に環境問題に興味を持ち、「何か行動を起こさなければ」と強く感じました。日本の自然や伝統文化を求めて旅をした経験から、子どもたちに伝統工芸を伝えたいという想いが強くなり、里山体験プログラムを始めました。

2002年に現在の活動の前身となる取組を始め、2019年に一般社団法人を設立、2021年から「木地師の森」の整備等に取り組んでいます。

ポイント

自然保護と子どもの遊び場の創出、災害に強い森づくり、木材利用を視野に入れた植林など、里山を多面的に活用できるように整備する取り組みをしています。

保育士や林業の専門家と協力しながら、森づくり体験や里山体験など環境教育プログラムを実施しています。

地域課題と取組成果

子どもの自然遊びが減り、自由に遊べる森も少ない中、里山体験・自然体験のフィールドとして、整備、保育園の里山体験の受け入れなどをしています。また脱プラスチック、循環する製品づくりへの時代ニーズに対応するため、器や家具として利用できる樹木の植樹・育成に取り組んでいます。

近隣の保育園や自然保育グループ「野遊びでおさんぽ会」がフィールドを利用しています。また原生林保護で協定を結んでいる企業との連携のほか、企業や学生との連携を進めています。取組を継続することで、子どもの頃に自然学校で体験した人が再び訪れるようになるなど、人の循環も生まれています。

- 事業内容 親子の里山体験を提供
- 設立年 任意団体設立2005年 法人化2019年
- 構成員 約100名(スタッフ6人、会員家族30組)
- HP URL <http://satonoie.org/index.html>

●里の家では、どのような活動をされているのですか？

加藤さん:「里山モデルの創造」「里山の生業、暮らしや伝統文化、食文化、伝統工芸の継承」「世代を超えたコミュニティの醸成」「子どもたちの成長をサポート」の4つを柱としています。失われた里山とコミュニティの再生を目指し、年間を通じた里山体験を中心に自然環境の調査や保全、生業の調査・研究・実践、人材育成などに取り組んでいます。

●このような活動を始めようと思ったきっかけを教えてください。

加藤さん:環境問題に関心を持つようになったのは高校生の時でした。『成長の限界』を読み、がく然とし、何か行動を起こさなければと強く感じました。その頃から、「環境問題を解決するために必要なことは何か」「人が人になるために必要なことは何か」と、今も自分に問い続けています。30代前半まで、日本の自然や伝統文化を求めて旅をしました。和紙や竹細工、鍛冶、染め物、木地師などを訪ね歩き、北海道では半年ほど農家さんのお世話になったこともありました。新鮮な野菜を食べ、天の川を眺め、野生動物を感じる原体験や伝統文化を子どもたちに伝えたいという思いが強くなっていきました。



里の家代表・加藤正裕さん



●人としての原点に立ち返ったような経験をされて、浜松にたどり着いたのはどうしてですか？

加藤さん:浜松には海があって、湖、平野、台地、山もあります。自然体験の場所として遠州がふさしいと考え、浜松へ引っ越しました。浜松は高速道路や新幹線も通り、グローバル企業も多い都市です。都田川は天然のアユが遡上する清流です。当時は第二東名高速道路の開発が予定され、都田近くに新しいインターチェンジができると思いました。そんな都田で物件を探していた時、この古民家に出会い、現在の活動拠点となっています。市街地から1時間もかからない場所で、こんなに立派な古民家が残されていることに驚きました。田んぼと畑と森があるまさに里山でした。活動する場所として理想的で「ここで始めなさい」と言われているような気がしました。

●「マミーの森」について教えてください。

加藤さん:マミーの森は、二次林をいかに整備し、活用するかがテーマです。子どもから青年まで、誰もが楽しめる場所を目指しています。他にも、アロマに利用できる樹木、器などの木地や家具に適した樹木を植えています。二次林は都市部の周辺に多く、この取り組みが浜松の周辺地域に横展開できればと思っています。

●里山体験活動に参加されたきっかけは何ですか？

川合さん:お母さんたちは、毎日仕事や家事に追われ、癒される時間や場所がほとんどないなと考えていたとき、この場所を知り、活動させてもらうようになりました。今ではここに来るだけで、気持ちが開放的になって、心が軽くなるのが分かります。人が用意したもので遊ぶのもいいですが、森の中で遊ぶと、子どもたちの好奇心や興味が、どんどん広がり、自然がもたらす、無限の可能性を感じることができます。自然の中にいると、大人が生き生きすることに魅力を感じました。子どもたちにとって一番幸せな環境は、周りの大人たちが楽しく生きていることなのかなと思います。



里山体験で講師を務める川合さん